

第3学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時

場 所 3年〇組教室

授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名 同じ人間として「C-(18)国際理解, 国際貢献」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

国によってものの感じ方や考え方, 生活習慣などが違っても, どの国の人々も同じ人間として尊重し合い, 差別や偏見を持たずに公正・公平に接しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「海と空—樞野の人々—」(文部科学省 中学校道徳 読み物資料集)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は, 中学校学習指導要領特別の教科道徳, 内容項目C-(18)「国際理解, 国際貢献」の「世界の中の日本人としての自覚をもち, 他国を尊重し, 国際的視野に立って, 世界の平和と人類の発展に寄与すること」を受けている。

今日, グローバル化が進展する中で, 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが一層重要な課題となっている。私たちは, 地球規模の相互依存関係の中で生きており, 我が国が, 国際的な関わりを持つことなく孤立して存在することはできない。日本のことだけを考えるのではなく, 国際的視野に立ち, 広く世界の諸情勢に目を向けつつ, 日本人としての自覚をしっかり持って国際理解に努めることが必要である。

中学校の段階では, 他教科等の学習とも相まって, これまで以上に世界の様々な国々に対する興味・関心が高まってくる。学年が上がるにつれて, 諸外国の政治・経済・文化をはじめとする様々な分野について, 多くの知識・情報・技術を手に入れ, 世界の国々との様々な形で関わりを体験する機会も増え, 世界の人々と関わり, 異文化への理解を深める機会を得たいという気持ちが大きくなる。

生徒は中学校卒業後, 新たな環境で様々な人と出会い, 生活していくことになる。将来, 他国の人々と同じ職場で働いたり, 他国と関わりの深い職業に就いたりするなど, 国際社会で活躍するということも大いに考えられる。世界の中の日本人として, 国や文化, もの感じ方や考え方, 生活習慣などが違っても, 同じ人間として尊重し合い, 差別や偏見を持たずに公正・公平に接することが大切であると考え, 本主題を設定した。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態

本学級の生徒は, 学習意欲と理解力が高い生徒が多く, 意欲的に学習に取り組んでいる。外国語の授業では, 外国の文化に興味を持って学習に取り組んだり, A L Tと積極的にコミュニケーションを図ったりしている。将来, 外国に行ってみたいと思っている生徒も多い。

本主題に関わる事前アンケートから, 外国の人と関わる機会として, 「海外旅行」「仕事での関わり」

「街中での出会い」などのイメージを持っていることが分かった。また、外国の人と関わる時に楽しみなこととして、「新しい発見があること」「日本人とは違った文化に触れられること」など、不安に思うこととして、「言葉が通じないこと」「考え方や文化が違うこと」などの回答が得られた。

生徒はこれまでに、1年生の「日本から来たおばさん」の授業で「その国独自の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解すること」について学習している。2年生の「六千人命のビザ」の授業では、今回扱う価値と同じ「国によってものの感じ方や考え方、生活習慣などが違っても、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正・公平に接すること」について学習している。これまでの学習内容を発展させ、本時はどの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見を持たずに公正・公平に接することが、国際協力や国際協調につながり、世界の平和と人類の発展に貢献し、世界の人々から信頼されることにつながるということに気付かせたい。そして将来、外国に出掛けたり、外国の人々と関わったりするときに、世界の中の日本人としての自覚を持ち、国や文化の違いを越えて良好な関係を築いていこうとすることにつなげたい。

(3) 使用する教材の特質

本教材は、軍艦エルトゥールル号の遭難事故、イラン・イラク戦争の際に日本とトルコの人々が互いに助け合った出来事を通して、どの国の人々も同じ人間として尊重し合うことの大切さや国際規模で互いに助け合うことの大切さについて考えることができる内容である。

1985年3月、イラン・イラク戦争のさなか、イランに在留していた筆者たち日本人は、首都のテヘランからの脱出を試みていた。しかし、各国の航空機は自国民を優先し、日本人の搭乗の余地はなかった。緊迫した状況の中、トルコ政府が、日本人救出のために救援機を出してくれた。

筆者は、なぜトルコ政府が救援機を出してくれたのか、疑問を持っていたのだが、トルコ人が親日的になった理由として、軍艦エルトゥールル号の遭難者を救出した日本人がいたことを知った。

1890年、和歌山県沖でトルコの軍艦エルトゥールル号が遭難し、乗組員の一人が檜野地区の灯台に助けを求めた。檜野の人々は、衣類とありったけの食料を提供し、住民総出でトルコ人の介抱をした。筆者は、檜野の人々の「危険にさらされた人々を誰かれの別なく助けたい」という思いがあったからこそ、100年以上経った今でも色あせることなく、トルコの人々の中に親日感情が生き続けているのだということに気付いた。

グローバル化が進み、国際社会で生きていく生徒たちに、どの国の人々も同じ人間として尊重し、差別や偏見を持たずに公正・公平な態度で接すること、国際規模で互いに助け合うことが、他国と良好な関係を築くことにつながるということを考えさせるきっかけとなる教材である。

(4) 指導観

本時の指導に当たっては、一見遠い場所の出来事のように思える国際理解や国際貢献について、身近な問題として捉えさせ、自分との関わりで考えさせることを意識して授業を進める。外国の言語や文化、歴史的背景に触れるなど、外国語や社会科など、他教科の学習とのつながりも意識したい。特に、トルコの親日感情の高さを理解させるために、歴史的背景を丁寧に押さえた上で範読をする。

自分との関わりで考えさせるために、事前アンケートを活用して身近な話題として考えさせること、檜野の人々の立場に立たせ、価値を実現することの難しさを考えさせることを意識して授業を進める。

中心場面では、どの国の人々も同じ人間として尊重し、差別や偏見を持たずに接することの大切さに気付かせるために、ワークシートを活用して複数の考えを持たせ、ありったけの食料を提供した檜

野の人々の行動について、多面的・多角的に考えさせることを意識する。

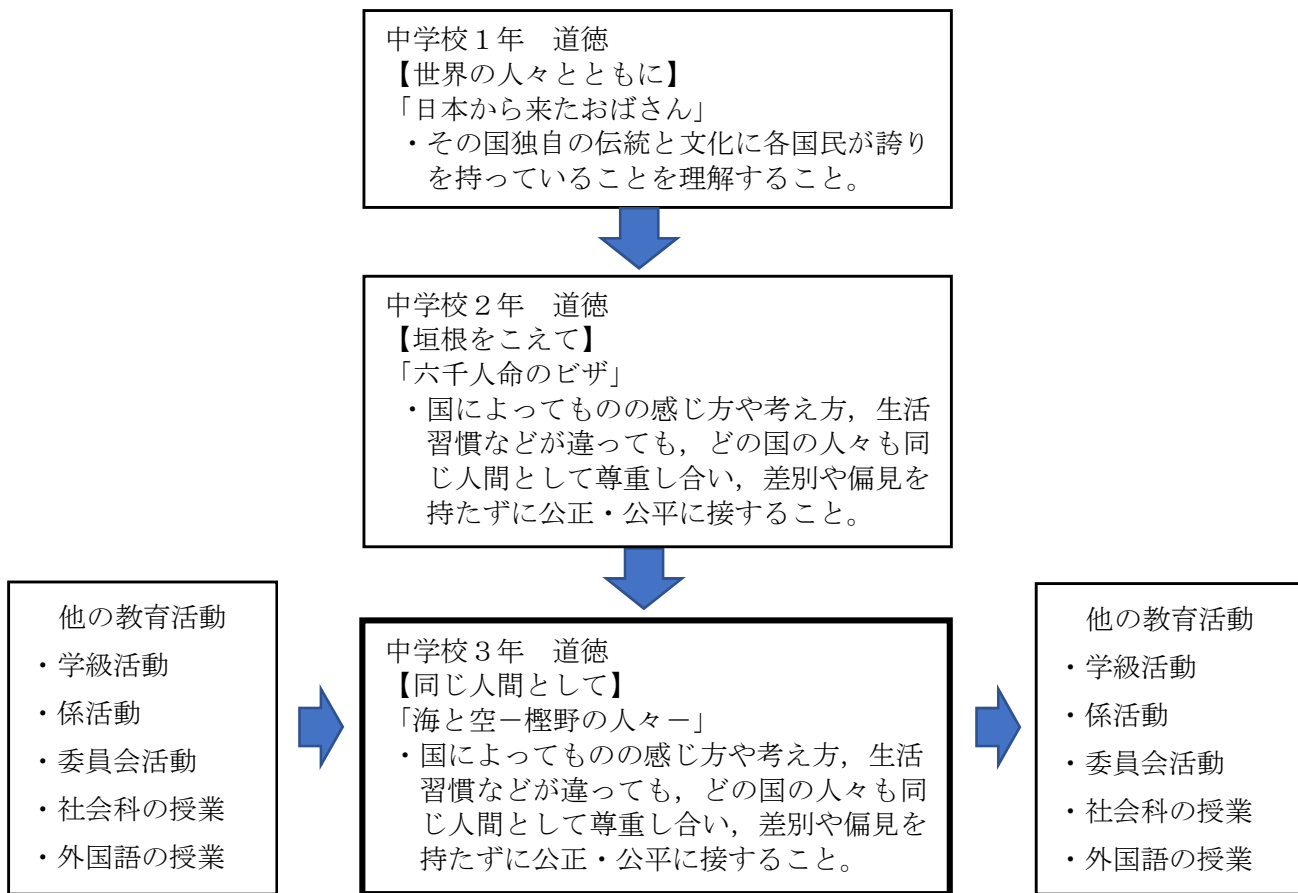
また、生徒が出した意見を取り上げ、他の生徒にどのように思うかを問うことで、1つの意見を全体に広げて共有し、「考え、議論すること」により、さらに多面的・多角的に考えさせたい。

生徒の学習状況を見取るために、事前アンケート、ワークシート、板書の記録を活用する。事前アンケートを導入場面と終末場面で活用し、比較することで、「世界の人々と関わる時に大切なこと」についての考えの深まりや変容を見取る。ワークシートの記述から生徒の考えを見取り、意図的指名を行う際にも活用する。板書の写真を活用し、生徒の発言の記録とするとともに、教師自身が「世界の人々と関わる時に大切なことについて、自分との関わりで考えさせているか」という点から授業を振り返る際にも活用したい。

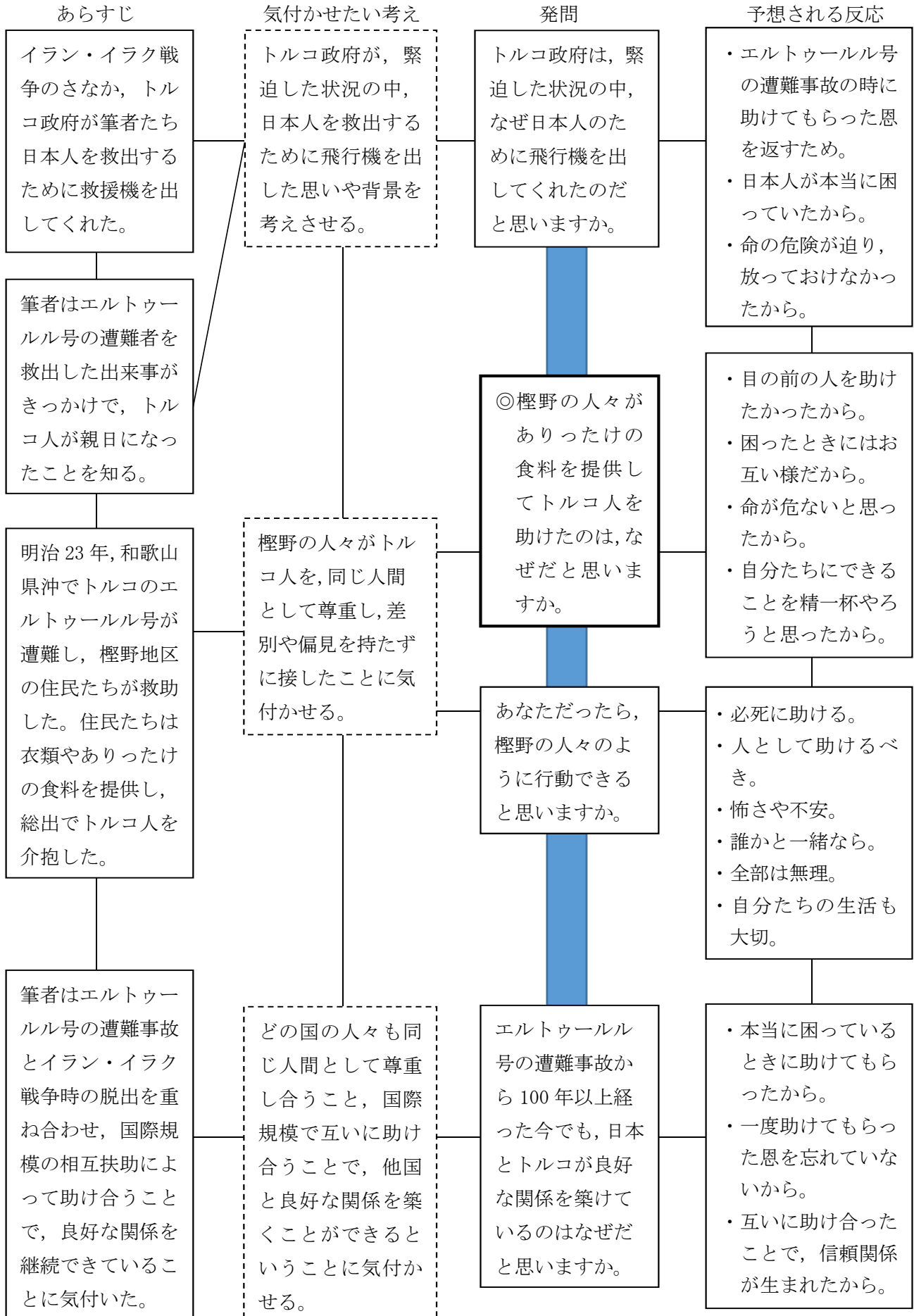
4 教材分析・発問構成 . . . 別紙

5 学習指導過程 . . . 別紙

6 他の教育活動との関連



(別紙) 4 教材分析・発問構成



(別紙) 5 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 (◎中心的な発問) ●補助発問 ・生徒の反応	指導上の留意点
導入 7分	1 本時のねらいとする道徳的価値についての問題意識を持つ。(一斉)	○事前アンケートの結果を確認してみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><事前アンケート></p> <p>○これから、どんなときに外国の人と関わる機会があると思いますか。</p> <p>○外国の人と関わる時に、楽しみなことと不安なことは何ですか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事前アンケートを活用し、外国の人々との関わりについて身近な問題として考えさせる。(問)</p> </div>
	2 課題をつかむ。(一斉)	○もし目の前で外国の人が困っていたら、あなたはどうしますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・何とか助けてあげる。 ・とりあえず声をかける。 ・誰か助けを呼ぶ。 ・そのまま通り過ぎる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生徒の身近に起こりうる具体の場面を提示し、自分だったらどのように行動するかを考えさせる。(自)</p> </div>
<p>世界の人々と関わる時に大切なことは何だろう。</p>			
		○世界の人々と関わる時に大切なことは何だろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が分かること。 ・コミュニケーションの力。 ・理解しようとすること。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>現時点での、国際理解、国際貢献についての考え方を確認させる。(問)(自)</p> </div>
展開 35分	3 範読を聞き、日本とトルコが良好な関係を保っている背景を捉える。(一斉)		<ul style="list-style-type: none"> ・日本とトルコの人々がどのような思いで助け合ったのかを考えながら聞かせる。
	4 トルコ政府が、緊迫した状況の中、日本人救出のために救援機を出した思いや背景について考える。(一斉)	○トルコ政府は、緊迫した状況の中、なぜ日本人のために救援機を出してくれたのだと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・エルトゥールル号の遭難事故の時に助けてもらった恩を返すため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争という非常時に、日本人を助けるために飛行機を出したトルコの人々の気持ちについて考えさせる。 ・補助発問で、トルコの人々の日本への思いの深さに気付かせる。

<p>展開 35分</p>	<p>5 エルトゥールル号遭難事故の際に、トルコ人を助けるためにありったけの食料を提供した樫野の人々の思いについて考える。 (個人 → ペア → 一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り残された日本人が本当に困っていたから。 ・取り残された日本人に、命の危険が迫っていて放っておけなかったから。 ●自分達が攻撃される危険もあったのに、それでも助けてくれたのはなぜだろう。 ・それだけ日本への感謝の気持ちがあったから。 ・今こそ恩返しをするときだと思ったから。 <p>◎樫野の人々がありったけの食料を提供してトルコ人を助けたのは、なぜだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく目の前にいる人たちを助けたかったから。 ・困ったときにはお互い様。 ・助けてあげないと命が危ないと思ったから。 ・自分たちにできることを精一杯やろうと思ったから。 <p>○あなただったら、樫野の人々のように行動できると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必死に助けるだけ。 ・自分たちは何とかなる。 ・人として助けるべき。 ・怖さや不安はある。 ・誰かと一緒にならできる。 ・全部は提供しない。 ・自分たちの生活も大切。 ●樫野の人々の行動を、あなたはどのように思いますか。 ・本当にすごいと思う。 ・なかなかできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景として、「48時間後に全ての上空の飛行機が攻撃されると宣言されたこと」「216人の日本人が取り残されていたこと」「トルコの飛行機が飛び立ったのは期限の約1時間前であったこと」をpushする。 ・樫野の人々がトルコ人を、同じ人間として尊重し、差別や偏見をもたずに接したことに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>樫野の人々がなぜ、ありったけの食料を提供してトルコ人を助けたのかについて、ペアや全体で話し合う活動を通して多面的・多角的に考えさせる。(多)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>樫野の人々の行動が容易にできることではないことを、自分との関わりで考えさせる。(自)</p> </div>
-------------------	--	--	---

	<p>6 エルトゥールル号遭難事故から 100 年以上経った今でも日本とトルコが良好な関係を保っていることについて考える。</p> <p>(ペア → 一斉)</p>	<p>○エルトゥールル号の遭難事故から 100 年以上経った今でも、日本とトルコが良好な関係を築けているのはなぜだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に困っているときに助けてもらったから。 ・一度助けてもらった恩を忘れていないから。 ・互いに助け合ったことで、信頼関係が生まれたから。 ・一度良い印象を持つと、それがずっと続いていくから。 ●エルトゥールル号の遭難事故のような出来事がなかったら、良好な関係はできないのでしょうか。 ・そういうわけではない。 ・日頃の関わり方が大切。 ・お互いを思う気持ちがあれば仲良くできる。 ●トルコとだけ良好な関係が築ければいいのですか。 ・他の国でも同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「エルトゥールル号の出来事がトルコの小学校の教科書で紹介されていること」「東日本大震災やその 7 ヶ月後のトルコ東部地震のときに、互いに救援活動を行ったこと」に触れ、現在でも良好な関係を保っていることを捉えさせる。 ・トルコについてあまり知らない生徒が多いと予想されるので、トルコの人々が日本のことを好意的に思っていることについて、どのように感じるかを問い、悪い感情にはならないことを捉えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>補助発問を通して、広く世界に目を向け、どの国の人々とも国や文化を越えて、互いに尊重し合い、助け合うことの大切さに気付かせる。(多)</p> </div>
<p>終末 8 分</p>	<p>7 人間としての生き方について考える。</p> <p>(個人 → 一斉)</p>	<p>○授業を通して、世界の人々と関わる時にあなたが大切にしたいと思ったことについて書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国に関係なく、困っていたらお互いに助け合えば、良い関係を築けると思った。 ・文化や言葉など、違うところはあるけれど、相手のことを思う気持ちは外国の人にも通じると思う。 ・人と関わる時に大切なことは、外国人でも日本人でも同じだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートに再度触れ、世界の人々と関わる時に大切なことについての考えの深まりや変化に気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>世界の人々と関わる時に大切なことについて、実際に外国の人々と関わる場面をイメージさせて考えさせる。(自)(生)</p> </div>

		<p>・世界にはいろいろな国や文化、言葉や生活習慣があることを知って、違いを否定しないで関わっていくことが大切だと思った。</p>	<p><評価> 世界の人々と関わる時に大切なことについて、実際に外国の人々と関わる場面をイメージし、自分との関わりで考えようとしているか。(自)(生)【ワークシート・観察・発言】</p>
--	--	---	---

(問) 問題意識を持たせる

(多) 多面的・多角的に考えさせる

(自) 自分との関わりで考えさせる

(生) 人間としての生き方について考えさせる

【評価】

<生徒の評価>

- ・世界の人々と関わる時に大切なことについて、実際に外国の人々と関わる場面をイメージし、自分との関わりで考えようとしていたか。(自)(生)【ワークシート・観察・発言】

<教師側の授業評価>

- ・世界の人々と関わる時に大切なことについて、事前アンケートを活用すること、実際に外国の人々と関わる場面をイメージさせることで、自分との関わりで考えさせていたか。(自)(生)【ワークシート・観察・発言】

【板書】

○月○日 第○回道徳 「海と空 - 樫野の人々 -」

世界の人々と関わる時に大切なことは何だろう 言葉をはさること, コミュニケーション, 理解しようとする

1890年 エルトゥールル号遭難事故

樫野の人々があったけの食料を提供

写真

- ・目の前にいる人々を助けたい。
- ・困っているときにはお互い様だから。
- ・助けてあげないと命が危ない。
- ・自分達にできることを精一杯やる。

自分だったら・・・?

- ・ただ必死に助ける。
- ・不安や怖さがある。
- ・自分達は何とかなる。
- ・自分からは無理。誰かとなら。
- ・国は関係なく助けるべき。
- ・全部は提供できないかも。

国を越えて

人として

助け合い

1985年 イラン・イラク戦争

- ・タイムリミットは48時間。
- ・日本人216人。
- ・1時間15分前に脱出。

トルコが飛行機を出してくれた

- ・エルトゥールル号のときの恩返し。
- ・日本のことが好きだから。
- ・日本が本当に困っていたから。
- ・命の危険が迫り、放っておけない。

・国に関係なく困っている人がいたら助ける。

・外国人でも日本人でも同じ。

・先入観を持たず、いいところは認める。

・差別や区別をしない。 ・決めつけない。

【準備物】

教師：教材、事前アンケート、ワークシート、発問カード

生徒：教材、筆記用具